

日本共産党区議会議員



伊藤和彦です

自宅 足立区花畑6-20-1 電話3859-6952
 足立区役所 電話3880-5111 (内線4650~4654)
 日本共産党区議団 直通3880-5770
<http://www5.famille.ne.jp/~k-itou/index.html>

バス路線網の新設、充実を求め 東武バスに交渉してきました



写真は右から2人目は大島よしえ都議、
右は伊藤和彦区議 4月12日東武にて

保木間2、3丁目を通って竹ノ塚駅に行く新規路線などを要望

日本共産党区議団は4月12日、大島よしえ都議とともに、区民からバス路線網の新設、拡充を求める要望が寄せられている路線について東武バスセントラル株式会社(伊興本町)を訪ね交渉、懇談してきました。

区は「足立区総合交通計画」で、きめこまやかな交通サービスの実現をめざすとして短期計画にある高齢者の外出支援として5年計画として短期計画にある高齢者

井ノ池循環の逆方向への通行など路線変更、コミニティバス「はるかぜ7号」及び「六月町バス停」を経由する竹1、14路線の増設、夕方4時、5時に終バスになる状況を改善することなどを要望しました。

東武バスからは、原田運輸統括部長(取締役)は「全部やりたい気持ちはだが」と話し、走行環境のこと、設備

画とされたうち、東伊興4丁目(見沼代親水公園・七曲がり道路・小竹橋道路)を通行し竹ノ塚駅西口行きを新設して欲しい。六月2、3丁目付近を通行する「はるかぜ」の新設。保木間2、3丁目を通行して竹ノ塚行きに行く新規路線。現行路線の拡充について、綾4路線の増設、西新



区議団とともに交渉する大島よしえ都議右から2人目

投資、採算面など課題が多いと回答しました。

参加した地域住民から関連する具合的な内容で懇談し、東武バス側からは、わかりやすく親切に回答がありました。バス路線整備ではバス停が作れない、協力してもらえないと苦勞なども出されました。

六町駅から花畑団地を経由し桑袋行きバス線の六町駅バス停は夜に電気が消え

て時刻表が見えないこと、竹ノ塚駅東から桑袋都住へ行くバスで西保木間の利用者から問い合わせのあった「終バスを以前のように10時6分まで伸ばして」の声も伝え改善を求めました。

牛車駅 堀切駅
梅島駅 竹ノ塚駅などのエスカレーターの設定や、地下連絡通路 ガードの雨



漏り、バリアフリーなど具体的な改善を求め要望してきました。

都議会・都市整備委員である大島よしえ都議とともに行った東武への交渉、意見交換は対応もよく有意義なものを感じました。

みなさんのご意見、要望をおよせください。

伊藤 和彦



地域のバスを利用して!

つくばエクスプレス線・六町駅から花畑団地経由し桑袋都住までのバス路線が出来て3年半になります。地域の要求で実現したバス路線ですが、「最近、バスの利用が少なくなったみたい。廃止されないようにバスをもっと利用して欲しい」の声。写真は榎の木公園に停車するバス

若者の雇用・就労支援の調査

4月10日、日本共産党足立区議団は、笠井亮衆議院議員、大島よしえ都議、吉良よし子さんとともに北千住にある「あだち若者サポートステーション」を視察し、若者の就労支援について調査しました。



足立区の就労支援事業は、働いた経験がない、働くことに不安を持つ若者の社会的自立を目的とし、就労意欲向上とスキルアップを図るための継続的な支援を行い、就労につなげていくものです。

「全国的にも自治体がこまめに取り組んでいるのは足立区がトップです。」と話するのは足立区橋本弘産業経済部長。

ハローワークと連携して若者の就労支援に取り組んで、包括的な支援体制が確立しているところに特徴があります。

まず、発見・支援の対象で

ある若者を見つけて出すこと。最近では高校の中退者、未就職など直接、高校に行き呼びかけをしています。

また、福祉事務所などでも周知活動をしています。



誘導―当事者を支援できる場所まで導いていく。ひきこもりセーフティネットあだちでのメール・電話相談、生活保護世帯の若者を誘導するなど行っています。

参加―社会参加できるようにするためのレベルアップあだち若者サポートステーションでの就労意欲の向上と就労スキルの習得を図っています。あだち仕事道場での経験や自信がないという若者への実践的な支援を行うことです。

出口―当事者の若者の社会参加・よりよい支援機関への誘導を図っています。

ハローワークや能力開発校へ

これらの4つの支援ネットワークが機能することによってはじめて包括的な支援とよべるものとなるとしています。

足立区での実績(24年度)若者サポートステーション

来所者―4621名

相談件数―2870件

進路決定者―688名(全国トップ)となっています。

若者の就労支援は日本共産党区議団が繰り返し、区議会できりあげてきたことが大きな原動力となったものです。



東京都議会議員 大島よしえ

実際に見ると聞くのは大違いで、ショックを受けました。昼食をとった店主が「生きていていいのか今でも思う」と。こんなことを言わせる政治の責任をあらためて痛感しました。福島の人には、東京に大量供給する電力のために大変な苦勞を今でもしています。

福島から大量電力供給されてきた

東京から原発ゼロの声を



今、ニッポンの生活保護制度はどうなっているの？

4月26日【金】午後6時30分
場所 西新井分化ホール・ギャラクシティ3階

多目的室
講師 黒岩哲彦弁護士
参加費無料



主催 足立社会保障推進協議会・東京土建一般労働組合足立支部・足立区労働組合

問い合わせは - 足立健康友の会 3870-4534